

議会報告会の具体的提案

提案にあたって

公明党議員団は議会報告会を開催するべきと考える。以下に理由を述べる。

- ア 議員個人や会派単位の報告会は従来から実施しており、その意義については大いに評価される。同時に、特定の議員や会派ではなく「超党派の議会報告」を求める市民の意向に応えることも重要ではないか。
- イ 「開かれた議会」を志向し、説明責任を果たし市民参加を促進するうえで、京都市会が議会報告会開催に向け積極的に取り組んでいる姿を市民や他都市に広く示すことは重要ではないか。
- ウ 堺市などの先行都市が、参加者数減少やマンネリ化等に直面し悪戦苦闘しているが、それらの多くが報告会事態を取りやめるのではなく、内容の充実や開催のあり方などを試行錯誤し様々な創意工夫を重ねていることを重視するべきではないか。
- エ 京都市は町衆の伝統があり市民の政治への関心が高い。学生の街でもあり、過日の大学生との懇談会でも「議員と接する機会を増やすべき」との意見が出された。また、市会事務局の能力や意欲も傑出している。過去の事例から見て大学教授など識者に助言を求める際にも協力して頂ける可能性は高いのではないか。知恵を結集して、京都市ならではの議会報告会は不可能ではないと考える。

具体案

- ア 予算および決算審査の議会終了後のタイミングで開催する。第1回は平成28年4月中旬、あるいは9月市会終了後の時期でどうか。
- イ 2部形式とする。式次第案は以下の通り。
 - 《第1部》 議長あいさつ5分、予算委員長報告10分、質疑応答25分
 - 《第2部》 ワールドカフェ方式で5G（常任委員会単位）に分かれ意見交換50分
- ウ 日時は高齢者に限らず社会人や学生にも考慮し日曜日の14時ころ開会。会場は交通便利の良い公共施設（キャンパスプラザ、ハートピア、メルパルク等）で行う
- エ 本格的な第1回目なので、市会HP以外にも各会派のメディアをフル活用するとともに、結集についても各会派の支援団体や後援会にも積極的に参加を呼びかけてはどうか。超党派で駅頭ビラ配布など社会的にPRする試みも実施したい。
- オ 報告会参加者の一部が妨害や迷惑行為等をしないため、事前周知や当日配布の「注意事項」が重要である。開催準備委員会を設置し綿密な協議が不可欠。

※今後のビジョンとして、世代別、地域別、政策別の開催も検討の余地はあると考える。